

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2025年 2月 7日	
所属部局・学年	野生動物研究センター・M1
氏名	田之畑穂花

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、鹿児島県 屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
2025年1月31日 ~ 2025年2月6日 (7日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター 杉浦秀樹准教授、幸島観察所 技術職員 鈴木崇文氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の渡航では、野生動物・行動生態野外実習として、鹿児島県屋久島でのフィールド調査体験および、西部林道におけるヤクザル、ヤクシカの行動観察、クジラの観察、屋久島の安房林での鳥のセンサスを行った。
〇スケジュール
1/31 集合/屋久島環境文化村センターに訪問/屋久島観察所にてクジラ調査のためのミーティング 2/1 クジラの観察/鳥センサスのためのミーティング 2/2 鳥センサス1日目 2/3 鳥センサス2日目 2/4 西部林道にてヤクザルとヤクシカの観察/栗生に自生するメヒルギを見る/春田浜で磯の生物を観察 2/5 クジラの観察/西部林道でバードウォッチング 2/6 片付け・清掃/帰宅
屋久島実習では天候に恵まれず、雨風に晒されながらの実習となったが、いずれの観察においても期待以上の成果が得られた。
〇クジラ観察について
風が強かったため、海は白波が立っていて視界が悪かったが、以下の行動が観察できた。 ・ザトウクジラのブロー ・ザトウクジラのヘッドスラップ(ペッグスラップかも) 最初は平内海中温泉の近くの海岸で観察していた。その際は、クジラのブローを何度か目撃した。その後クジラが東の方面に向かっていったので、場所をSamanaホテルのデッキに変更して観察を続けた。そこでは、クジラが比較的近くで観察でき、ブローに加え、ヘッドスラック(ペッグスラックかも)を観察できた。ヘッドスラックはクジラが海面に頭を何度もたたきつける行動(ペッグスラックは胸鰭をたたきつける)で、クジラが落ち着いているときに遊びの一貫で行う行動だと言われている。 今回の観察では、高田さんというクジラの研究をされている方に同行してもらった。高田さんは白波がたくさんある中でも、素早くクジラを見つけて私たちに教えてくれたので、自分たちもクジラを見ることが出来た。
〇鳥センサスについて
安房林道の標高1400mから300mまで区間で鳥の調査を行った。500mの距離を歩いて、立ち止まりその都度5分間、鳥の声と姿を探した。姿がなく、声だけ聞こえた場合は、鳥の声から種類を判別し記録した。鳥の調査では、屋久島でガイドをしている福留さんという方に同行してもらった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

今回の調査では、メジロ、ヒヨドリ、ヤマガラ、ヒガラ、サンショウクイ、ミソサザイ、ハシブトガラス、カケス、シロハラ、ノスリ、コマドリの存在を確認できた。

標高が徐々に下がるにつれて照葉樹が増え、それに伴って鳥の鳴き声も多くなった。

サンショウクイとカケスは初めて見る事が出来たのでうれしかった。

鳥センサス以外の時間に、実習期間中いくつか鳥を観察することが出来た。アオバト、トラツグミ、コチドリ、ジョウビタキ、キセキレイ、ミヤマホオジロ、カツオドリ、ハヤブサ、イソヒヨドリ、ミサゴ等

○ヤクザルとヤクシカの観察

屋久島では、サルがヤクシカの背中の上に乗っている写真が有名で、実際にサルとシカの距離が本州で見るときよりも近かった。サルがいるところには、必ずと言っていいほどシカもいた。杉浦先生が言うには、屋久島はサルもシカも密度が高いため、本州よりもサルとシカをセットで見ることのできる確率が高いだけで、屋久島特有のものではないだろうとのことだ。シカはサルが落とした葉などを食べるため、餌を待つためにサルのいる木の下で待機していたりするそうだ。

ヤクザルもヤクシカもいずれも亜種で、屋久島の固有種だ。

ヤクザルとヤクシカはいずれも体サイズが本州の個体よりも小さく、色が黒かった。ヤクザルは本州のニホンザルよりも毛足が長かった。



寒さをしのぐために集まるサルたち

○春田浜での磯探索

春田浜の磯では、岩をひっくり返して海棲生物を探した。

タテジマユムシ、クモヒトデ、イソカニダマシ、タカラガイ、ウミウシ、ゴカイなどを見つけた。

一番驚いたのは、ゴカイが貝殻や小石を自身の出す粘液に絡めて筒上の巣を作ることだ。ゴカイが巣を作ること自体知らなかったため、またとても器用に小石などをまとめていたので、感動した。



ゴカイの巣

○クジラの観察2回目

2回目のクジラの観察は Samana ホテルの近くの海岸で行った。この日も波が高く白波が多くたっていた。しかし、波が高かったおかげで、クジラの親子が湾の中で休んでいるところに遭遇することが出来た。この日はクジラの子供が頭を少し出して、海の中をくるくると円を描くように泳いでいるところを観察でき

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

た。さらに母クジラがブローした際に尾ひれをフルークアップしたところを目撃した。直接見ることはできなかったが、高田さんが撮った映像には、母クジラの横に子クジラがピタリと寄り添って一緒にブローするところが映っていた。



西部林道で見た虹



二回目にクジラを見た場所

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp】宛にご提出ください。

6. その他（特記事項など）

実習中は、杉浦秀樹准教授、鈴木崇文氏、高田氏、福留氏にご尽力いただき、充実した日々を過ごせた。重ねて深く感謝申し上げます。